

経営参画分科会報告

研究主題 「共同実施による経営参画」

1 はじめに

第2共同事務室の発表レポートは、2つの取組みについての報告であった。

1つは年度末評価の「組織マネジメント」の「業務内容が教職員に理解できるように取り組むことができた」という項目のポイントが毎年低いことからこの点に着目し、組織としての改善へ向けた取組みとして、学校経営計画に学校事務の共同実施とグループの活動計画を掲載すること、職員会議で積極的に共同実施について提案すること、共同事務室だよりを年7回発行すること、手当認定にかかる情報の収集および情報の確保に努めること、を室員全員で推進し行っているというものであった。

2つめは震災時の準要保護児童生徒の事務処理に対する取組みの紹介であった。第2共同事務室は東日本大震災により被災した児童生徒、教職員が宮古市内でも多く、学校においては校舎の半壊、体育館の床上浸水等の被害を受けたところ、避難所となったところもあり、たいへんな状況であった。東日本大震災により就学援助受給者も3倍になっているとの報告がなされた。第2共同事務室内において行った、東日本大震災の罹災状況等に関するアンケートにおいて、震災直後から避難所が閉鎖されるまでの事務職員の対応、行動についての報告があり、今後においてもたいへん参考となるものであった。今回の発表では、K小における東日本大震災発生時から避難所が開設された後の様子、復旧にあたるまでの様子など事細かに説明がなされた。写真などを用いて当時の状況が時系列に記録されており、いかに悲惨な状況であったか、いかに教職員の対応がたいへんなものであったか語っていた。

2 討議の内容から

(1) 研究の目標 「共同実施の業務内容を教職員が理解できるように取り組む」

共同実施についていかに職員に関心を持たせるか、共同事務室だよりは有効な手立ての一つである。共同実施の内容について、共同事務室だよりを通して発信していきたい。共同実施について職員会議の場で伝えていくことも大事であることを確認した。

意見交流の場において、市町村教委の担当者がかかるたびに、共同実施がどのようなものか説明しなければならない、共同事務室だよりを事務室単位、個人単位で発行しているところは今のところ他にはない、近いうちに学校の統合がありどのように共同実施が進んでいくのか先が見えない、諸手当の認定についてどのように行っているか等、各市町村の状況を交えながら交流を行った。

助言者からは宮古市の状況にふれながら助言をいただいた。共同実施について職員への啓蒙が大切である。宮古市においては手当認定ソフトの活用を推進し認定確認事務を行っ

ていること、校務分掌に共同実施を必ず位置づけることとなっていること等が話された。手当は職員本人からの届出主義であることから、プライバシーに立ち入ることも多いので、職員と事務職員との日頃のコミュニケーションが大事であることが話された。また、K小の発表にふれ危機管理のキャップは副校長であると考えてるが、きちんと記録が残されていたすばらしい発表であったという話もなされた。

(2) 研究の目標 「震災時の準要保護児童生徒の事務処理に対する取り組みの紹介」

第2共同事務室内において地域的に大きな被害を受けたK小、T小において就学援助受給者が増加している。職場の被災による離職、自宅の被災等事由はさまざまである。奨学金の事務が新たに増えた。

意見交流の場においては、各市町村における就学援助費の状況について交流をおこなった。Y町も震災後就学援助受給者は増えている。町教委から次年度の就学援助費申請の通知はきていない。宮古市においては市教委担当者との連携で震災を事由とする申請については、様式の簡素化が図られた。T村も村教委から次年度の就学援助費申請の通知はきていない。申請書を学校から村教委へ提出し村教委で全て審査する。収入状況等同意書もあわせて提出する。PTA会費、振興会費、クラブ活動費も対象項目に含め3年間支給される。O町も次年度の就学援助費申請の通知はきていない。25年度については所得確認が必要になるかもしれない。離職者について2年経過しても認定になるのだろうか。

I町は平成24年度途中で震災の認定が行われた。平成25年度は一般の認定に係る申請となる予定。

助言者から就学援助費は就学困難な児童生徒に対する制度である。一般と被災の認定のはざままで教委担当者も悩んでいる。教委担当者、関係機関と連携をとり正確、迅速な認定事務が大事である。学校事務職員、教委担当者にとってお互いのメリットとなるような事務の簡素化、事務改善が大事である。震災後就学援助費に関連した事務が増加している。震災に伴う調査も増加している。情報提供、話題提供を事務職員から発信してもよいのではないか。というお話をいただいた。最後に第2共同事務室の発表にあたりたいへんすばらしい実践レポートであったという助言をいただいた。